

1. 調査概要

(1) 調査概要

1) 調査の目的

魚沼市では、魚沼市総合計画及び魚沼市環境基本計画の中で掲げている基本目標「色とりどりの四季と人が共生するまちづくり」を実現するための施策の一環として、市内の動植物の生息状況を調査することで自然環境の特性を明らかにし、その調査結果を、自然環境を柱としたまちづくりに活用することを目的に、2011年度から魚沼市自然環境保全調査事業を実施してきている。

2017年度は、里地里山を中心とした植物や鳥類、両生類の生息状況を明らかにすることを目的として調査を行い、2018年度は両生類に替わり昆虫の調査を実施した。

また、調査の過程で、市民啓発を行うことも目的として本事業を実施した。

2) 実施方法

2017年度については、2016年度調査と同様に里地里山における植物、鳥類、両生類の生息状況について調査を行った。調査地は、植物調査1か所、鳥類調査4か所、両生類調査6か所で調査を実施した。2018年度調査は、植物調査については2017年度に調査した場所を引き続き調査するとともに、もう1か所調査地点を追加した。鳥類調査は4か所、昆虫調査は2か所で調査を実施し、希少種の量的な調査を2か所で実施し、両生類も希少種の調査を1か所で実施した（調査箇所は図1-1参照）。

調査は、特定非営利活動法人魚沼自然大学に委託することにより実施し、これまでと同様に、意識啓発を図るため、市民から調査ボランティアを募って実施した。また、現地調査や観察会、標本整理等について、小出野鳥の会や魚沼昆虫同好会からも協力を得ながら実施した。調査を実施する際、観察会を兼ねて実施するなど、参加者に対する啓発活動も行った。

調査員及びボランティアの参加者数は、2017年度は延べ202人、調査日数は延べ37日、2018年度は延べ183人、調査日数は延べ34日の実施であった。

3) 調査結果

2017年度調査では、植物は539種、鳥類は64種、両生類は13種、2018年度調査では、植物は500種、鳥類は63種、昆虫は64種（トンボ類38種、チョウ類26種）を確認することができた。それぞれの結果の詳細は、分野ごとに後述する。

(2) 魚沼市の概要

魚沼市は、新潟県の南東部にあり、福島県、群馬県と接している。面積は946.76 km²で、そのうち84%が森林である。人工林の割合は約8%と低く、大部分がブナやミズナラを中心とした落葉広葉樹林で占められている。

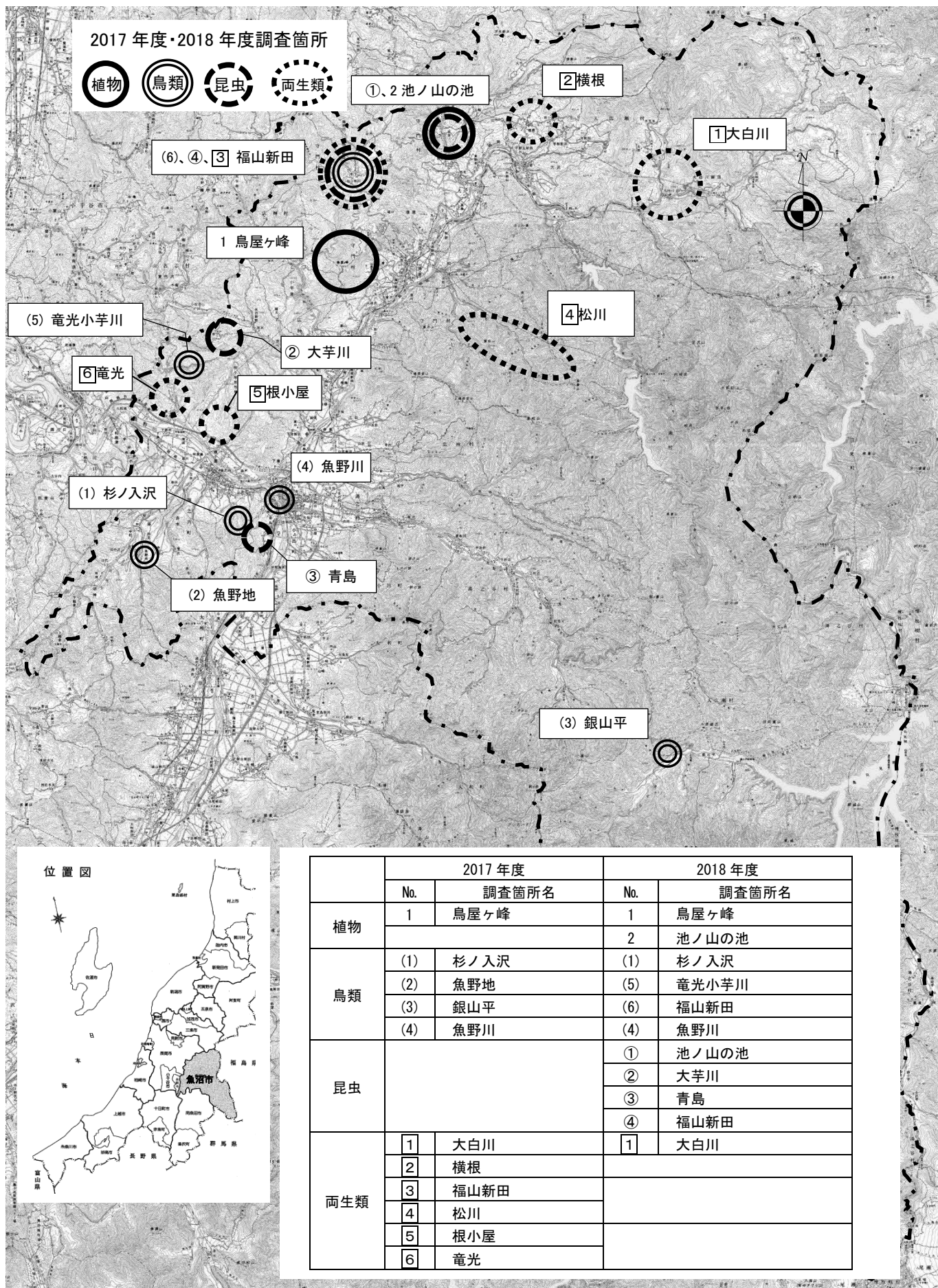
地形は、西を緩やかな魚沼丘陵と東山丘陵、東を急峻な越後山脈に挟まれた盆地を形成し、最低点は標高74m、最高点は2,141mと、高低差2,067mの変化に富んだ地形である。主な河川は魚野川と、その支流である破間川や佐梨川、羽根川などであり、多くの河川によって平地や段丘、扇状地などが形成されている。

本市には北北東－南南西方向に新発田－小出構造線が走っており、これを境に東西で大きく地質が異なっている。

また、本市の気候は典型的な日本海型気候であり、夏は高温多湿で、冬は市街地でも3mを越える積雪に覆われる豪雪地帯である。気象庁アメダス観測所の平年値は、小出観測所では年平均気温12.1℃、年間降水量2,544mm、守門観測所では、年平均気温11.1℃、年間降水量3,050mmとなっている（表1-1）。

表 1-1 魚沼市の気象データ（気象庁アメダス観測所、1981年～2010年 平年値）

観測所名		1月	8月	年間
小出	平均気温	0.1℃	25.6℃	12.1℃
	降水量	370mm	161mm	2,544mm
守門	平均気温	-0.5℃	24.3℃	11.1℃
	降水量	468mm	192mm	3,050mm



国土地理院の数値地図 25000 (地図画像)「新潟」、「日光」、「長岡」、「高田」を掲載

図 1-1 魚沼市自然環境保全調査事業 調査箇所図

